

宮崎労働局長から企業トップへの「働き方改革」要請 ～ SCSKニアショアシステムズ 株式会社 ～

令和3年10月18日、田中宮崎労働局長が、SCSKニアショアシステムズ株式会社の馬場一幸執行役員から「働き方改革」の取組状況をお聴きし、更なる取組の推進をお願いしました。

訪問企業名	SCSKニアショアシステムズ株式会社
所在地	宮崎市橘通東4丁目7-28 TOKIWA30ビル
労働者数	415名（宮崎開発センター：82名）
事業内容	ソフトウェア業

➤社員が安心して働くことができる職場づくり

「地域」×「働き方改革」×「IT」の組み合わせで共創社会を実現していくことを重要施策の一つとしている。あわせて、仕事と生活の「バランス」から一歩進んで「幸せ」を求める取組として「ワーク・ライフ・ハピネス」に力を注いでいる。

社員が安心して働ける職場づくりのため、長時間労働の是正や健康増進、柔軟な働き方や休業・休暇制度などに取り組んでいる。

➤時間外労働の削減

「スマート・ワーク・チャレンジ20」と称して平均月間残業時間20時間以下に取り組んでいる。所定時間内に終了できるような業務計画の策定や適切なマネジメントを行うなど、時間外労働を削減しながらも生産性の向上を図り、2020年度は平均月間残業時間19時間36分で目標の月間平均20時間以内を達成することができた。

➤年次有給休暇の取得促進

同じく「スマート・ワーク・チャレンジ20」として年次有給休暇の取得20日（100%）を目指している。毎年1年間の取得計画を作成させ、計画通りに取得できるよう管理するなどにより2020年度の取得率は19.25日（約96%）を達成した。

➤両立支援について

年次有給休暇の他にも有給の特別休暇として男性社員に対する配偶者の出産休暇（年3日）、マタニティ休暇（通算10日）などを設けている。育児休業について、2021年に宮崎で初めて男性社員2名が取得しており、今後、さらなる取得に向けて働きかけを行いたい。

➤柔軟な働き方について

在宅勤務についてはコロナ前から取り組んでおり、平均して30%~40%の在宅勤務率となっている。また、コアタイムが無いスーパーフレックス制度も導入しており、これらを組み合わせることによって労働者自身が自由な時間を確保することも可能としている。

また、今年の7月から副業制度を導入している。就業時間外などの余暇時間などを利用し、地元や家業に対してIT技術者としての知見や当社のノウハウを地元企業に活かすことにより地域活性化にも繋がると考えている。

➤今後の目標について

育児休暇を取得した男性の一人はプロジェクトリーダーであり、周りの社員の負担増が生じた点もあるものの、一方で「リーダーの不在が自身の成長の糧にもなった」などの好意的な意見もあり全体としては好評であり、引き続き男性の育児休業取得を積極的に進めていきたい。

また、ジェンダー平等の実現を目指し、2030年までに女性管理職比率15%以上を目標に行動計画を策定し、厚生労働省大臣日程の「えるぼし」の取得を目指すこととしている。



田中局長（左）と馬場執行役員（右）